

第 29 回 福岡県合同輸血療法委員会報告書

2026 年（令和 8 年）2 月 5 日（木）

2026 年 4 月発行

福岡県合同輸血療法委員会

福岡県保健医療介護部

福岡県赤十字血液センター

発刊にあたって

2026年2月5日（木）に開催された第29回福岡県合同輸血療法委員会の報告書を発刊する運びとなりました。

福岡県ではこれまでの30年近くに渡る活動を通じて、安全な輸血、血液製剤の適正使用に対する意識が根付いています。しかし少子高齢化が進む日本では輸血用血液の需要は増加する一方、献血可能人口は減少傾向にあります。特に若年層の献血離れは深刻であり、安定供給体制の維持は決して容易ではありません。需要と供給のアンバランスはもはや血液製剤の適正使用推進だけで解決できる問題ではなくなってきました。そこで今回の福岡県合同輸血療法委員会は、輸血医療の入口である献血について皆様に改めて考えていただくことを主題に内容を構成しました。

第一部では「献血から血液製剤供給まで」をテーマに、福岡県赤十字血液センター職員の方に献血および血液製剤供給の現状をお話いただきました。また献血に積極的に取り組んで下さっている若い方々の代表として福岡学生献血推進協議会会長の馬場涼帆氏にその取り組みについてご講演いただきました。

第二部では例年通り輸血医療に関する総合的調査（アンケート）の集計結果を報告しました。今年も多くの医療機関にご協力いただき精度の高い調査結果を得ることができました。お忙しい中アンケートにご回答いただいた医療機関の皆様にご心より御礼申し上げます。この資料を各施設における輸血医療の振り返り、改善に是非お役立て下さい。

第三部の特別講演では読売新聞社東京本社中部支社長の池辺英俊氏をお招きし、ご自身の闘病・輸血体験、輸血医療への思いを献血への提言も交えてご講演いただきました。私たちが取り扱っている血液製剤は単なる「モノ」ではなく、患者さんの命、そして希望をつなぐかけがえのないものであるということ、安全・安心な輸血医療を実践するために私たちに課せられた役割は非常に重く大きいということを再認識する貴重な機会になったのではないかと思います。

医療現場を支える血液製剤は、人工的に造ることができず、善意の献血によってのみ支えられています。本報告書を通じて輸血医療に携わる一人一人が福岡県の現状を共有し、献血の意義、そして輸血医療全体を見直していただければと思います。

最後になりましたが、今後とも福岡県合同輸血療法委員会活動へのご理解・ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

2026年4月

福岡県合同輸血療法委員会を代表して

社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院 輸血科診療部長 大崎 浩一

目 次

1. 日程・場所	4
2. 参加医療機関等	5
3. 司会挨拶		
4. 開会挨拶	福岡県合同輸血療法委員会代表世話人 (聖マリア病院 輸血科 診療部長)	大崎 浩一
5. 挨拶	福岡県保健医療介護部 医監 福岡県赤十字血液センター 所長	佐野 正 熊川 みどり
6. 第1部：活動報告		
	テーマ：「 献血から血液製剤供給まで 」	
演 者	(1) 「福岡県における血液製剤供給の現状」 7
	福岡県赤十字血液センター 学術情報・供給課 児玉 修平	
	(2) 「福岡県における献血の現状と課題」 11
	福岡県赤十字血液センター 献血推進課 森部 恵介	
	(3) 「福岡学生献血推進協議会の活動」 13
	福岡学生献血推進協議会 会長 馬場 涼帆	
7. 第2部：報告		
	「輸血医療に関する総合的調査」集計結果報告 18
演 者	産業医科大学病院 臨床検査・輸血部 山口 絢子	
8. 第3部：講演		
	「輸血で命を救われたひとりとして」 23
演 者	読売新聞東京本社 中部支社 中部支社長 池辺 英俊 先生	
9. 閉会挨拶		
参考資料	28